



生徒に苦しみ、生徒に支えられ

副会長(名古屋市立南陽中学校常勤講師)

塚寄 崇史(S60 卒)

定年退職まで1か月を切った令和5年3月。まったく退職という実感がわかないまま、私は中学2年生の学年主任として忙しい日々を送っていました。

同じ学年の特別活動担当として頑張ってくれていた新卒3年目の女性。ある日朝の会で突然生徒の顔を見ることが苦しくなり泣き出してしまいました。すぐさま管理職や周りの先生と協力をしあい、補欠授業などの対応をしました。たまたま彼女のクラスで生徒同士のトラブルや生徒指導が重なった時期でした。しかし一番の引き金となったのは、強い口調で理不尽な要求をしてきた保護者への対応だったと思います。責任感の強い彼女はその後も少しでも頑張ろうとしましたが、一度負った心の傷は簡単には治りません。休むことが多くなりました。そんな矢先、私の部活動の部員がその先生へ渡してほしいと手紙を託しました。

〇〇先生へ

私はずっと先生のことが大好きですし味方です。何があっても、どれだけの人が敵に回っても、最後の一人になっても必ず先生の味方です。

心無い言葉は人の心をえぐってボロボロにさせる。最悪死に追いやることだってできる。言葉は人を救うことも傷つけることもできる。本物の刃物をどれだけ多く並べたって言葉の刃物には勝てやしない。心の傷は体の傷よりよっぽど痛く、深いもので一生残ってしまう。

(中略)

先生はクラスが離れた私にもずっと良くしていただいているのに、私は何もできません。力及ばず申し訳ない気持ちです。悔しいです。情けないです。ただ味方ているくらいしかできることはありません。

先生にはずっと笑ってほしいし、元気でいてほしい。幸せであってほしいです。でも無理してまですることではないと思います。心から笑っている先生が大好きですから。

私はずっと先生の味方であるということを忘れないでください。



この手紙を見た私は涙が止まりませんでした。

学校の先生は世間で言われている通り大変な仕事です。音楽など教科の専門として授業を行うことの何倍も教育者としてのスキルが要求されます。しかし、一つ確実に言えることがあります。それは「大人が感動で涙を流すことができる素敵な職業」であるということです。

「一人ひとりを大切にする教師になる」

寄稿

岐阜県多治見市 南ヶ丘中学校教諭
山田未優(R5 卒)

このような想いを持って4月から教員になりました。

しかし、「わからないことがわからない」ながらも、生徒の前では“先生”として奮闘せざるをえないもどかしさ。自分の知識の浅はかさを痛感することによる挫折。毎日が驚きと葛藤の連続です。

そんな中でも、教員をやってよかったなと思えることは、人として成長できたと自分自身が思っていることです。こんなにも人として鍛えてもらえる時間は今までの人生で他にありません。教員という職業は、毎日毎日、人と関わる仕事です。子どもたちの成長に貢献したい、という思いを持って現場にいけばいくほど、自分の未熟さを突きつけられます。

生徒から「先生の歌声をもっと聴いていたい、先生みたいになりたい」、保護者の方には「うちの娘が先生の授業が刺激になり、自分からピアノ始めたいと言ったんです。」という声を聞き、その一言に大変励まされ、嬉しく、人の成長に関わることができると心の底から感じられることがやりがいです。

また、私自身が担任として、毎日心がけて行っている事があります。

常に机や荷物の整理整頓、生徒よりも早く教室に入ること、掃除の徹底、黒板を常にきれいに保つこと、一人ひとりの行動や日記に心を込めてコメントをすること、感謝や思いやりの気持ちの心を持つこと。そう言った行動を続けていると、生徒の行動が落ち着き、心が素直になり、成長のために様々なことを吸収する土台ができると感じました。

そして、自分の立ち振る舞い、信念、生き方がダイレクトに教室の姿へと反映されると感じさせられました。まだまだ未熟な私ですが、生徒たちに音楽の楽しさ、そして音楽でしか伝えられない感動を学んでもらえるように、生徒と一緒に日々学び続けていきたいです。

寄稿

「白馬からの贈りもの」

東浦町立緒川小学校教諭
小田 雅(R3 卒)

大学を卒業して3年目、今年度より愛知県の小学校にて本採用していただけることとなりました。前年度までの2年は長野県白馬村立白馬中学校に勤務していました。

卒業する時、教諭になると県外への異動は簡単にはできないと考え、長野の講師として長野県教育を学び、また愛知へ帰ってこようと決めました。白馬村は3000m級の山がすぐ目の前に連なっており、人々はその絶景や登山、スキー、温泉などその山の恩恵を受けながら生活しています。夏の白馬中生はマウンテンバイクで登校し、冬は大雪の中をスキーウェアとスノーブーツで登校してきます。廊下は板張りでできていて、靴箱はスノーブーツが入るように縦に長くできています。昇降口には傘立てのようにスキー・ストック入れがあることにも驚きました。

白馬中でご一緒させていただいた先生方は穏やかで深い考えを持っている人が多いと感じました。考えさせられる言葉ももらい、一緒に働か姿からこうありたいと思う理想の姿を目の当たりにし、日々成長させてもらいました。

白馬の子どもたちは純朴で、大自然の中でたくましく、自分らしく生きていました。愛知で勤務をして3カ月ほど経ちますが、子どもたちの本質は変わらないような気がします。それぞれの環境の中でたくましく生き、誰一人として同じ人はおらず、それぞれに事情を抱えています。どんな子どもどんな形であれ、学校へ登校するということはすごいことだなと感じています。

毎日成長していく子どもたちを目の前に、たくさんの刺激をもらい、自分自身も日々成長を感じています。愛知で勤務しながらも長野での経験を決して忘れることなく、たくさんの素晴らしい先生方の後ろ姿を目指し続けたいと思います。そして、いつか背中を語るような教員になりたいと思っています。

◆会員の異動◆7月10日現在めいおんの会把握分 (SHR 卒年) 名古屋市立は市名略、愛知県は市町村名記、他は都道府県名記
【教諭(本務)】<退職>塚寄崇史(S60)守山西中 <転任>中島菜苗(H17)豊田・県立豊田特別支援→豊田市立特別支援学校、石橋由紀(H28)静岡・袋井南中→山名小<新任>小田 雅(R3)東浦町・緒川小学校
押谷百恵(R4)滋賀・彦根南中、山田美優(R5)多治見・南ヶ丘中
【講師】<転任>三浦和世(H7)知立・知立西小→西尾・西尾中、伊東誠子(H7)三重・飯野小→鈴鹿・河曲小
<新任>岡田東子(R5)南陽中、森田育未(R5)常滑・鬼崎中、半田・亀崎中、福永萌衣(R5)日進・日進北中